

3 - 7 油壺・鋸山における地殻変動観測 (その9)

Secular Ground Tilts and Strains as Observed at Aburatsubo and Nokogiriyama(9)

東京大学地震研究所・油壺地殻変動観測所

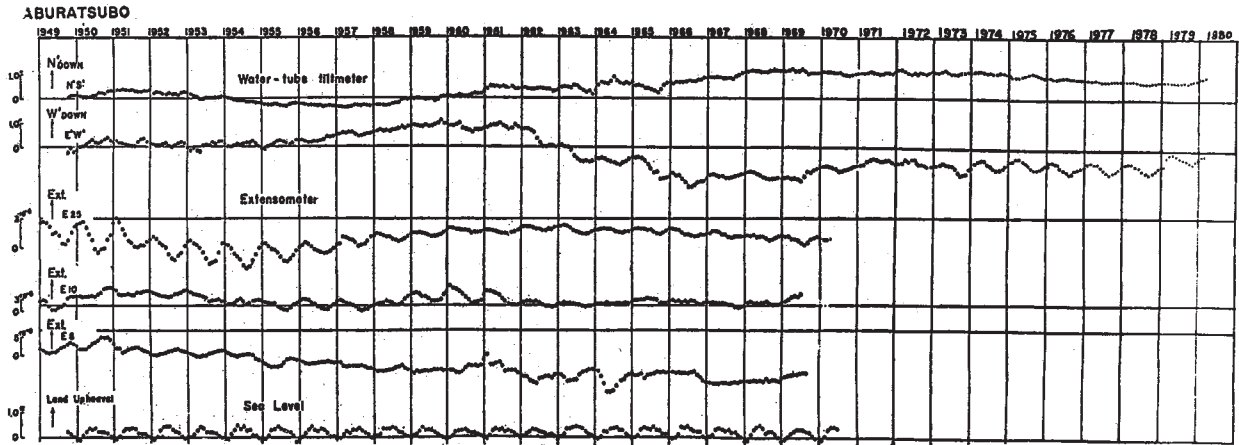
鋸山地殻変動観測所

Aburatsubo Crustal Movement Observatory and
Nokogiriyama Crustal Movement Observatory,
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

前八報に引続き、1980年3月までの観測結果概略を報告する。

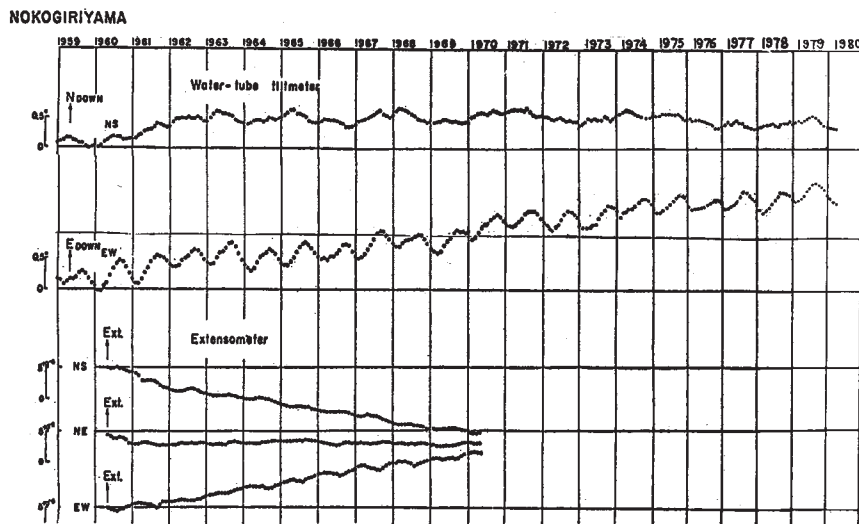
その後油壺の水管傾斜計には両成分とも格別の変化は見られない。鋸山においては水管傾斜計 NS 成分は顕著な動きはなく、EW 成分のみ依然 E 下りの傾斜の進行を示している。これは同地における長期地殻変動の傾向を反映するものであろう。第3図の野島崎における傾動測量(オートレベルによる)の結果にも、微弱ながら NE 上りの傾向が定着しているように見える。

第4図は油壺・鋸山における傾動ベクトルを比較したもので、見易いよう鋸山の資料は座標変換して油壺資料に重ねてある。時折り現われる顕著な相には対応を辿りつつ A, B, …… , J の記号を付けてある。さきに報告した通り、A ~ E からはそれぞれ移動性地殻変動の存在が読取れていたが(鋸山の方が1~1.5年先行)、このような特性は F 以降の相についても引続き認められる。ただし最近の分(J)については両地点の位相差はほとんどないように見える。



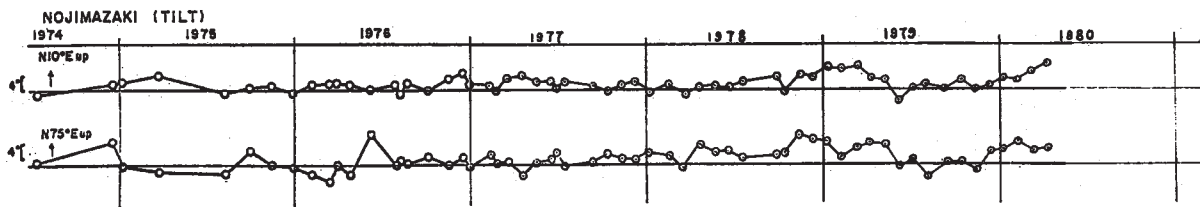
第1図 油壺における土地傾斜・伸縮（月平均値）

Fig. 1 Ground tilts and strains at Aburatsubo (monthly mean values).

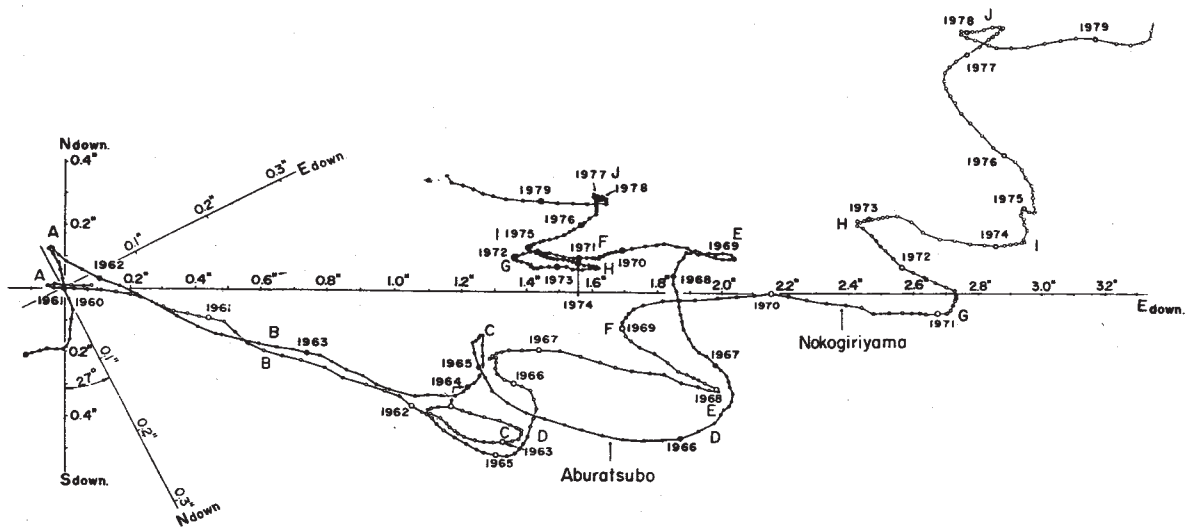


第2図 鋸山における土地傾斜・伸縮（月平均値）

Fig. 2 Ground tilts and strains at Nokogiriyama (monthly mean values).



第3図 野島崎における傾動測量結果
 Fig. 3 Ground tilts at Nojimizaki, Boso Peninsula.



第4図 油壺・鋸山における土地傾動ベクトルの比較（記号 A, B, …… , J はそれぞれ対応する特徴を示す）
 Fig. 4 Tilt vectors at Aburatsubo as compared with those at Nokogiriyama (Symbols A, B, … , J represent correlation of events at the two stations).